

## スーパーグローバル 「英語でプレゼンテーション」の講義を行いました。

2017年10月10日の7時間目に5年生全員を対象に、広島大学大学院教育学研究科のグローバル教育推進室より、Aaron C. Sponseller (アロン C. スポンセラー) 先生を講師にお招きして「英語でプレゼンテーション」という題目で、英語による講義をしていただきました。

今日の講義では、「英語でプレゼンテーションを行う際のポイント」を分かりやすく、そして簡潔に説明して下さっただけでなく、「聴衆(Audience)=聞き手」を大切に、つまり意識したプレゼンテーションにするためポイントも説明していただきました。

講義では、スピーチとプレゼンテーションは大きく違っていることを例に挙げ、プレゼンテーションでは「発表者(Presenter)」「聴衆(Audience)」「スクリーン(Screen)」の関係(Pyramid)を意識することや、「発表者は聴衆に伝えたい内容を、ストーリーとして組み上げているか」や、「文字を極力使わず、ストーリー性のある図や写真をスクリーンに投影しているか」など“ストーリー”をキーワードに、プレゼンテーションをするにあたっての大切なことを伝えていただきました。

また、英語でプレゼンテーションをする際に大切なことは、「謝らないこと」を強調されました。母語でない第二外国語を用いてプレゼンテーションをすること自体困難であり、そのことを聴衆も十分理解して発表を聞いているからこそ、“Sorry to my poor English.”と謝るのではなく、「発表の機会をもらえて嬉しい」と感謝の気持ちを表現し、自信を持って発表することが大切だと教えていただきました。

プレゼンテーションを上達させるためには、“Practice Practice Practice!”であったり、立って本番のように声を出し、身振り手振りを交えた練習を繰り返すこと、そして先生や仲間たちに聞いてもらいアドバイスをしてもらうことが大切であることなどをお話していただきました。また、先生や仲間たちのアドバイスは、「よかったよ」と褒めるだけでなく、「よりよくするためのアドバイス」であるべきだとの話もされました。

講義後の質問では、プレゼンテーションをしていると、スクリーンにばかり聴衆が気を取られ、発表者の方を見てくれないといった悩みに対して、「一気に情報を流すのではなく、話すタイミングに合わせて情報を流してみるといい。」といったアドバイスをいただき、実りある1時間の講義となりました。

現在、5年生は、課題研究の発表やI D E C連携プログラム英語によるプレゼンテーションを準備しているところで、今後に生かせる講演会となりました。

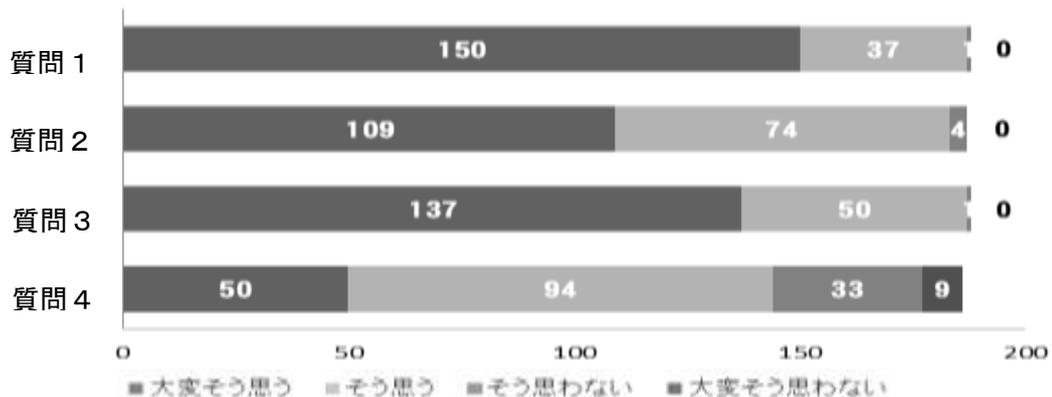


以下に講演を受けた生徒のアンケート結果をまとめました。

### 質問項目

1. 講義に関心をもって参加することができた。
2. 英語の講義内容は理解することができた。
3. 講義はプレゼンテーションの作成や準備の参考になった。
4. プレゼンテーションで自分の考えを発表してみたいという気持ちが強くなった。

集計結果  
\*総数192



自由記述 今回の講演から学んだこと、考えたことを具体的に記述してください。

○講義自体がとても聞きやすく、分かりやすい「プレゼンテーション」の好例だった。時折ジョークを交えるなど、聞きやすくプレゼンにしつつ、でも要点はしっかり伝える素晴らしい技術だった。日本人ならではの悪い癖について外国の方から見た意見という事で、説得力があり参考にし



たいと思うものばかりだった。プレゼンの技術の向上はかなり難しいと感じていたので、この講義で紹介された内容をもとにプレゼンテーションのスキルの向上に努めたいと思う。講師の先生は「年に25~30回も行えば緊張もしなくなる」と言われていたし、実際、自然体でプレゼンを行っていたので、やはり何事も経験の量や練習の重要性を感じた。



○英語の授業でのクラスプレゼンや、IDEC連携プログラムでのプレゼン、提言Iなど、プレゼンをする機会が多くあるので、とてもいい勉強になりました。以前、IDEC連携プログラムでプレゼンをしたときに、自分がやってしまったミスについて、今日の講義を聴いて改善するべきことが見つかったので、次のプレゼンの機会には今回学んだことを活かして頑張りたい。



○外国人の先生が話されると聞き、講義内容が理解できるかどうか心配していたが、アロン先生は私たちに分かりやすい言葉で説明してくださったのできちんと理解することができた。また、そこから簡単な言葉で伝える大切さを学んだ。これまで「練習することは大切だ」と言われてきたが、どんなことをすればいいかまいち分かっていなかった。今回の講義では、プレゼンの具体について教えてくださったので、次回自分がプレゼンをする機会があったら、今回の講義の内容も踏まえた上でプレゼンしたいと思う。



○「謝らない」というのが印象的でした。確かに英語でプレゼンをするときに「こんな分かりにくい英語でごめんなさい」という気持ちがあり、それによってプレゼンも弱く説得力のないものになってしまうように思います。「謝る」ことによって逆に「分かりにくいプレゼン」にしていたのかもしれない。でも、「謝らない」という気持ちを持つことができれば、オーディエンスを気遣い、練習を重ね、さらに良いプレゼンができると思いました。本番になってからではなく、準備の段階で聞き手への配慮・心がけをして、たくさん練習もして、自分の拙い英語への気持ちは忘れ、自信をもってプレゼンすることの大切さを学びました。



○“A presentation is not a speech”という言葉は心に残った。プレゼンテーションは聴衆がメインで、「話す」だけでなく「伝える」ということが大切なのだと思います。自信を持ってしっかりと聴衆に理解してもらえるプレゼンをしよと思った。

○プレゼンテーションは、スピーチではなく、相手に伝えようとするのが大切。そのため体で表現する。大きな声で話す。パワーポイントの文字を見やすくするなどをすればより良いプレゼンテーションになると分かった。一学期にやった英語のプレゼンテーションではできていなかったポイントばかりなので、今回はこれらのポイントをおさえて発表したい。

○英語力について謝罪するな、という教えが、最も印象に残っている。話し始めた時点で自分の英語力など知れているし、自分が英語を先生のように話せていないように、先生も自分たちのように日本語を話せない。と励ましてくださって、自信を持つことが大切だと背中を押してくださったように感じたのが嬉しかった。先生のプレゼンテーションはとても聞いていて勉強になり、かつ楽しめたし、先生自身がコツを体現しながら話してくださったように感じられたので、自分も先生のようにプレゼンができるようになるよう、努力していきたいと思った。

○今回の講演で一番参考になったのは、練習についてです。練習をすることが大事なのは分かっているのですが、では次にどのように練習するか、どうやったら一番効果的であるかというのは考えたことがありませんでした。ただ一心不乱に読む、覚えるのではなく、プレゼンテーションの練習として聞く人、オーディエンスがいるというのを絶対に忘れないようにしようと思いました。

○英語の授業でスライドはできるだけシンプルにと何度も言われていたが、実際に文字がたくさんスライドを見て、これだと聞く側は疲れてしまって、プレゼンターの言っていることに集中することは難しいだろうと思った。これからプレゼンのスライドを作るときには、聞く側の立場に立って、自分のスライドは分かりやすいものになっているかをきちんと考えることができたらいと思った。また、身振り手振りも大切だと知った。ずっと真っ直ぐ立ったまま説明されるより、きちんと Audience の顔を見て手を動かしたり、立ち位置を変えたりすることが大切だと思った。